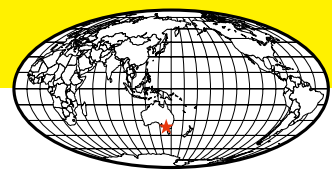




波と風に削られて形成された十二使徒の岩



海外 稲門会の躍動

Overseas TOMONKAI

登録稲門会 検索

現在、約70の海外稲門会が世界各地で活動しています。海外に滞在する際は、現地の稲門会を検索して参加してみましょう。
※一部、活動休止中の稲門会もありますことを、ご了承ください。

会長メッセージ

5年前にメルボルンに赴任し、私自身、トロント、シンガポールに次いで、海外で三つ目の稲門会会員となりました。
海外に駐在すると、所属企業、業界を超えて、海外でなければ出会うことのできないようなさまざまな方々と交流ができ、非常に貴重な経験となります。このメルボルン稲門会でも、根っこが繋がった同学意識の下、年齢は違って一緒に学生時代にタイムスリップできるとい

う、ひと味違った新たな出会いを再び味わうことができました。
メルボルン稲門会の元会員の方々が「東京メルボルン稲門会」を結成されて、定期的に懇親会を開いていると聞きます。今後もメルボルン稲門会の輪を途切れることなく広げていきたいと思

二橋泰裕(1981年法学)

会員からのメッセージ

自社の日本人駐在員第1号としてメルボルンへ赴任したのが2015年。当初は初めての海外駐在にいろいろと不安もありましたが、メルボルン稲門会のおかげで寂しさを感じることもなく、公私ともに充実したオーストラリア生活を送ることができています。今は日本にいたときよりも早稲田の存在を近くに感じますね。メルボルン稲門会、最高です！

清水規史(2007年商学)

メルボルンに来て、Monash大学で働き始めて10年近くがたちました。知り合いが一人もいないこの地に立ったとき、最初にしたことは稲門会を探すことでした。初参加の回から名簿係に任命され、その後、ポロシャツ、帽子作りといういろいろなことに駆り出されました。それにより知り合いの方が増え、現在も楽しくメルボルンで生活しています。

齋藤 敬 (2000年理工、02年工研修、04年工研博)

洗練された街メルボルンは、「世界一住みやすい都市」という言葉に納得する居心地の良さです。コーヒー文化の街、美食の街とも呼ばれ、各種ヨーロッパ料理をはじめ、アジア、アフリカ、中南米など、世界中の本格的な料理を堪能できるのはうれしい限りです。皆さまの稲門会へのご入会をお待ちしています。

櫛部克紀(1996年教育)

メルボルンはオーストラリアで一番の親日都市です。世界各国から移民が集まる中、日本語はまだまだ人気で、中学・高校や大学で勉強されています。市内は基盤の目のようになっていて路地裏にも楽しみがあり、市民はフレンドリーでユーモアにあふれ、近くには山も海もあります。家族旅行、ワーキングホリデーや留学にはメルボルンをおすすめします！

浅原(荻島)由江(1993年人科)

まったく知り合いのいなかったメルボルンに住み始めて、もう1年半がたちます。その間、メルボルン稲門会の皆さまと、楽しい時間を過ごしました。先輩方の貴重なお話を伺ったり、留学生の方から将来に向けた熱い思いを聞いたり、同年代の方と楽しくお酒を飲み交わしたりと、本当に良い思い出ばかりです。今後もみんなで会を盛り上げていきます！

安部耕太(2008年文学)

メルボルン稲門会の集会などで時折歌う校歌や応援歌は、卒業から半世紀近くの時間を飛び越え、一瞬にして私を学生時代に引き戻してくれます。まさに「心のふるさとわれらが母校」を思う楽しい時間で、これも稲門会あつてのもの深く感じ入ります。フレー、フレー早稲田、そしてメルボルン稲門会。

中川伸太郎(1970年理工)

メルボルン稲門会について

ています。メルボルン稲門会の詳細についてはFacebookページをご覧ください。
若林浩一(1993年理工)

夏(3月)のバーベキュー会



1983年に設立されたメルボルン稲門会は、温和な二橋会長のリーダーシップの下、留学中の現役学生から若手・シニアの駐在員、永住者まで、老若男女問わず、常時40～50人の会員で活発に活動しています。

メルボルンの緑豊かな中でのゴルフ大会やバーベキュー、モーニントン半島でのイカ釣りといったアウトドアや、オーストラリアワインを持ち込んで中華や韓国のみならず、タイ、マレーシア、ギリシャといった多国籍な料理を楽しむ夕食会など、1年を通してオーストラリアならではの企画を開催しています。

学生や駐在員が会員の中心であることから、「集まり散じて」人は変わっていきませんが、東京からはるか8,000キロメートル離れたメルボルンという土地で、校友の絆は脈々と受け継がれ

メルボルンの魅力

(上)メルボルンの顔、フリンドガース・ストリート駅
(下)動物園ではカンガルーと触れ合うことができる



オーストラリア、ビクトリア州の州都メルボルンは、「世界で最も暮らしやすい都市」ランキング(英国『エコノミスト』誌)において6年連続で1位を獲得した、メルボニアン(メルボルンで生まれ育った人)自慢の街です。19世紀の雰囲気を残す建築物と近代的なビルや緑豊かな公園が融合した美しい街並みが特徴で、年間を通してテニス、F1、サーフィン、競馬、モトGP、ゴルフなどの世界的な大会が開催されます。日本同様四季があるため、ファッションも楽しめます。劇場や美術館、博物館も多く、文化的に成熟した街だと言えます。

ビクトリア州はオーストラリアで最も多くのワイナリー(約600カ所)を有しており、車で2時間も走ればさまざまなワイナリーを訪問することができます。レストランではワインに合った食事を堪能でき、グルメの街としても名をはせています。郊外では野生のカンガルーやエミュー、運が良ければコアラを見かけることもあります。
上田直人(2009年社学)